

初等家庭科教育法の受講大学生にみる健康観に関する研究 —映画「となりのトトロ」を教材事例に—

An Analysis of the Vision of Health by University Students Attending Home Economics for Elementary Education: A Case Study of the Movie “My Neighbor Totoro”

花 輪 由 樹*
HANAWA Yuki

新学習指導要領において家庭科は「生活の営みに係る見方・考え方」として、「①協力・協働」「②健康・快適・安全」「③生活文化の継承・創造」「④持続可能な社会の構築」の4つの軸が示されている。本研究は小学校教員を目指す大学生を対象に、これら4つの軸と、与えられた題材を関連させる授業展開の検証を行った。まず大学生が抱く4つの軸へのイメージを考えさせ、映画鑑賞を通して、家庭科の各学習分野に繋がる授業展開を提示させ、4つの軸との関連を分析させた。本稿では特に「②健康」に着目して分析した。大学生の健康観は、主に心身に関することがイメージされていたが、「(1)社会的健康」「(2)情緒的健康」「(3)知的健康」「(4)人間の健康」といった視点も含まれた回答もみられた。また提示された授業案は、食生活と栄養に関するものが多く、住生活への着目はわずかであった。健康阻害要因も考慮した幅広い意味での健康のあり方について、家庭科としての明示が求められていることが考察された。

キーワード：健康, 家庭科, 大学生, 映画, となりのトトロ

Key words : health, home economics education, university students, movie, My Neighbor Totoro

1 はじめに

1-1 研究背景と目的

近年、学習指導要領の改訂に伴い、学校教育全体において「各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら」学習活動を行うことが触れられるようになった。この「見方・考え方」は、深い学びを实践するための鍵となるもので、新しく習得した知識・技能を既知のものとは結び付け、社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力を豊かなものとし、社会や世界への関わり方の視座を形成するために重要なものとされている。またこれは、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という物事を捉える視点や考え方も鍛えるもので、その際には教科等の学習の特質が表れるという。そして各教科等の学びで鍛えられた「見方・考え方」は、世の中の様々な物事を理解し思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出していくことに関わっていくことが示されている¹⁾。

家庭科における「各教科等の特質」は、「生活の営みに係る見方・考え方」と記されており、これは小学校から高等学校までの全発達段階の学習指導要領²⁾の教科目標において指示がなされている。表1の小・中・高等学校の家庭科における学習指導要領の教科目標をみると、発達段階毎に到達すべき生活者像は少しずつ異なるが、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」という記述のされ方は一貫している。

また「生活の営みに係る見方・考え方」は、「①協力・協働」「②健康・快適・安全」「③生活文化の継承・創造」「④持続可能な社会の構築」の4つの軸から成り、これらの視点から家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を捉え、よりよい生活を営む工夫の学習が期待されている³⁾。図1は、小・中・高等学校の家庭科において、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の3つの学習分野の中から、「生活の営みに係る見方・考え方」の4つの軸をどのように学習していくかが示されたものである。これをみると「衣食住の生活」に関する内容は、特に「②健康・快適・安全」「③生活文化の継承・創造」が大きい丸で表示されており、このように学習内容毎に重視される軸が異なっていることが示されている。しかしこれは、②③以外の「①協力・協働」「④持続可能な社会の構築」の視点を全く含まないわけではない。授業で取り上げる学習内容や題材構成によっては重視する軸が異なることから、いずれかの視点を意識した授業の展開が求められていくという⁴⁾。

つまり教師側の裁量次第で、これら4つの軸が各授業テーマとどのように結びつくかが決まっていくことになる。そこで本研究は、小学校教員を目指す大学生を対象に、与えられた題材を4つの軸とどのように繋げることができるのか、映画「となりのトトロ」の鑑賞を通じて分析させる検証を行った。また本稿では特に4つの軸のうち「②健康」への分析に着目し、大学生の健康観の実態把握と、小学校家庭科としての「健康」に関する学

表1 小・中・高等学校の家庭科における新学習指導要領の教科目標

| 小学校 家庭科 | 中学校 技術・家庭科 家庭分野 | 高等学校 家庭科 |
|--|---|---|
| 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、生涯を見通し、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |
| ① 日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 | ① 家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 | ① 自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 |
| ② 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 | ② 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 | ② 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 |
| ③ 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 | ③ 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 | ③ 様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を養う。 |

(小・中・高等学校の家庭科の新学習指導要領より筆者作成)

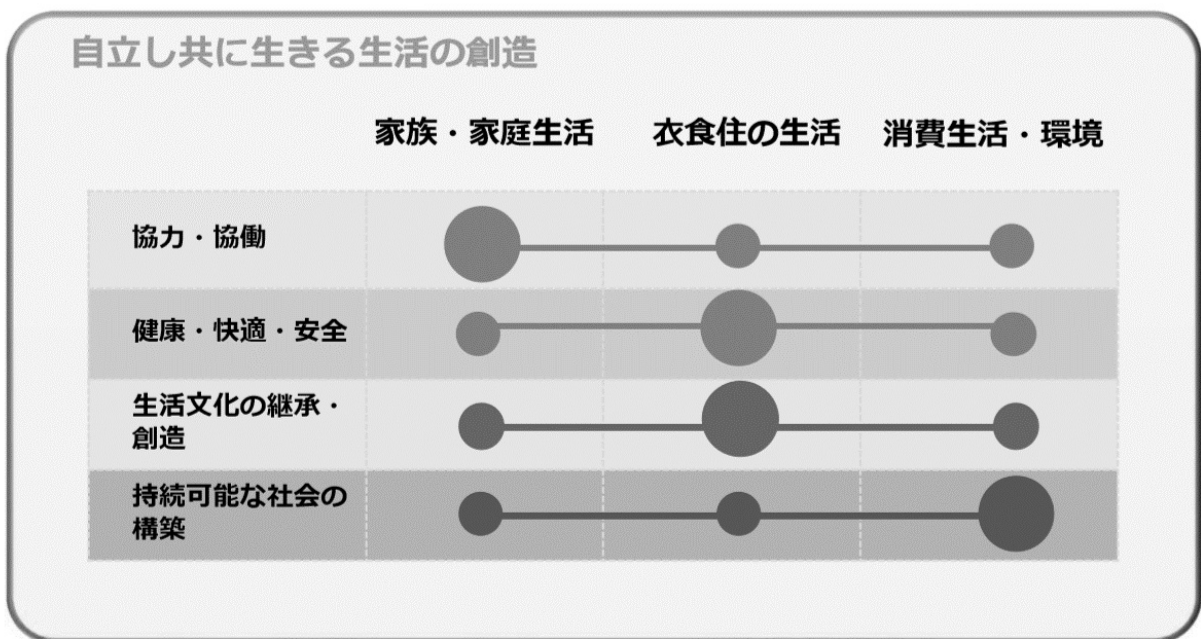


図1 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における「生活の営みに係る見方・考え方」

(文部科学省教育課程部会(2016)より)

習についての考察を行った。

1-2 対象と研究方法

対象は、A大学における「初等家庭科教育法」のaクラス履修者29名（男性6名、女性23名）、bクラス履修者26名（男性22名、女性4名）の計54名（男性28名、女性27名）で、実施日は2019年6月17日に行った。もともと授業履修者はaクラス49名、bクラス39名存在していたが、多くの学生が実習等で不在になる状況であったため、新学習指導要領の新規項目である「生活の営みに係る見方・考え方」の部分で、映画分析によって深めさせる学習を実施した。なお学生の記述分析内容は研究活動に使用する可能性があることを事前に伝えた。

方法としては、「となりのトトロ」の映画鑑賞を通じてプリント学習を行った。「となりのトトロ」は高度経済成長期における昭和時代の話であり、現代社会よりも自分達で衣食住に関する生活を創り出す様子が描かれているため教材として注目した。このような映画教材を使用して、Q1の「生活の営みに係る見方・考え方」の自分なりの定義に関しては、映画鑑賞の前に考える時間をとった。ここでは「生活の営みに係る見方・考え方」の4つの軸である「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築」を、「①健康」「②快適」「③安全」「④協力・協働」「⑤生活文化の継承・創造」「⑥持続可能な社会の構築」の6項目に分け、自分なりの言葉で定義を行わせた。次にQ2

では、映画鑑賞をさせながら、「衣」「食」「住」「家族」「消費」「環境」の暮らし方が映画の中にどのように展開されているのか、その実態を記述させた。そしてQ3では、「衣」「食」「住」「家族」「消費」「環境」をテーマに、家庭科としての授業展開の簡単な流れを記載させ、さらにQ1で触れた6項目との関連を分析させた。授業展開の案については、映画の中に登場する生活場面において課題を設定しそれを解決させるパフォーマンス課題の提示もありうることを事前に伝えた。なお映画自体は1時間半ほどの上映時間があるが、鑑賞させた部分は冒頭の45分程であり、その前後でQ1とQ3のプリント学習を実施した。

その中でも本稿では、Q1の「①健康」についての学生による自分なりの定義と、Q3の「①健康」に関連させて分析した授業提案の内容に注目し、大学生の健康観と小学校家庭科の学習としての健康概念のあり方を考察した。

大学生の健康観に関する先行研究はこれまでもなされており、本研究に近いものとしては、300人規模の女子大生を対象とした生活習慣から探る健康観に関する研究⁵⁾、保健体育分野において小学校教諭希望者と養護教諭希望者の健康観の比較を行った研究⁶⁾、生活科において教科書分析から教科としての健康観を探った研究⁷⁾などがみられるが、本研究で目指すような新学習指導要領の視点を踏まえて小学校家庭科の健康に関する学習のあり方を探ろうとしたものはみられない。

表2 「生活の営みに係る見方・考え方」の視点から探る「となりのトトロ」のプリント学習の項目

| | | |
|---|-----|--------------|
| Q1.あなたにとって〇〇とは？どのような状態をいいますか。自分なりの言葉で定義してみよう。 | | |
| ①あなたにとって「健康」とは、どのような状態？ | | |
| ②あなたにとって「快適」とは、どのような状態？ | | |
| ③あなたにとって「安全」とは、どのような状態？ | | |
| ④あなたにとって「協力・協働」とは、どのような状態？ | | |
| ⑤あなたにとって「生活文化の継承・想像」とは、どのような状態？ | | |
| ⑥あなたにとって「持続可能な社会の構築」とは、どのような状態？ | | |
| Q2.トトロ映画の中に、以下のテーマのものが、どのように登場するのかをまとめよう。 | | |
| テーマ | | トトロ映画に登場するもの |
| どんな衣服を、どんな風に着ている？ | | |
| どんなものを、どんな風に食べている？ | | |
| どんな住まいに、どんなふうに住んでいる？ | | |
| どんな家族と、どんな風に暮らしている？ | | |
| どんなものを購入し、どんな風に消費している？ | | |
| どんな環境に暮らしている？ | | |
| Q3.トトロを教材にした家庭科の授業を考えよう。その際、Q1の①～⑥のキーワードを関連させて考えよう。 | | |
| テーマ | 授業案 | Q1と関連するキーワード |
| 衣 | | |
| 食 | | |
| 住 | | |
| 家族 | | |
| 消費 | | |
| 環境 | | |

2 結果

2-1 大学生の健康観

表3 大学生による自分なりの健康の定義 (n=54)

| 分類 | 内容 | 番号 |
|------|--|-----|
| 心身 | 生きていることを感じながら過ごしていること。身体的のみならず、生活にハリがある状態。 | A1 |
| | 心、体が共に健やかな状態。元気である状態。 | A2 |
| | 心と体に問題がない状態 | a3 |
| | 心も身体も元気で、自然の摂理にしたがって規則正しい生活を苦も無くできる状態。 | A4 |
| | 心も身体も元気な状態。 | A5 |
| | 心も体も状態が良好な状態 | b1 |
| | 社会生活や自己実現において心身ともに支障がない状態 | A6 |
| | 心身ともに安定し、快適な状態 | A7 |
| | 心身共に大きな問題がなく、頑張ろうと前向きに思っている状態 | a8 |
| | 心身ともにおだやかであること | B2 |
| | 心身共に元気だといえる状態 | a9 |
| | 心身ともに元気で活動をする意欲がある状態。 | A10 |
| | 心身共に差し障りがない状態 | A11 |
| | 心身ともに自分が快適だと感じる状態 | A12 |
| | 心身ともに健やかな状態。 | A13 |
| | 心身ともに調子が良い状態 | b3 |
| | 心身ともに病的な状態ではない | B4 |
| | 心身共に良い状態を保っていること | A14 |
| | 心身共に良好で心配のない状態 | a15 |
| | 心身の調子が良好である状態 | b5 |
| 病気 | 身体、精神に不自由がない状態。 | b6 |
| | 身体・精神ともに健やかな状態のこと | A16 |
| | 生活習慣が正しく、心身に不調がない状態 | b7 |
| | 精神的に、身体的に、病気やけがをせず生活している状態 | b8 |
| | 起きる、食べるが自分でできて病気をしていない状態 | b9 |
| | 自分を苦しめる病などが無い | b10 |
| | 病院で診断をくだされるような病気にかかっていない状態のこと | b11 |
| | 病気がなくて活動できる状態 | A17 |
| | 病気が一つもなくケガもしていない | b12 |
| | 病気でないこと、ストレスが過度でココロが緩やかな状態 | A18 |
| | 病気ではない、よく眠れる、よく食べられる | A19 |
| | 病気ではない状態 | A20 |
| | 病気にかかっていなくて、悩みごともなく、お腹もすいていなくて、スッキリとした状態。 | b13 |
| | 病気にかからない。心の安定。 | A21 |
| | 病気になっていない | b14 |
| 体 | 病気やケガがない状態。ほどよく笑って生活できている状態。 | A22 |
| | 病気やけがをしていない状態 | A23 |
| | 病気をしない、体に異常がない状態 | A24 |
| | 不調がないと感じる | a25 |
| | 体に異常がなく、あらゆる活動が自由にできる状態 | A26 |
| | 身体の調子が良く、自由に動き回れること | A27 |
| | 体の調子が悪くないこと | B15 |
| | 健やかなこと。ケガや病気の無い状態のこと。 | B16 |
| | 3欲と精神に異常がない状態 | b17 |
| 心 | 死にたいと思うことがない | b18 |
| | 必要最低限以上の活動が意欲的にできる状態。 | A28 |
| | やる気が沢山ある状態 | b19 |
| 自立 | 自分がいつもしている生活ができること | b20 |
| | 自分自身が生活をする上で支障なく生活できる状態 | b21 |
| その他 | 元気 | a29 |
| | 支障のない生活 | B22 |
| | 自分が健康と思っているかどうか | b23 |
| | 体調が優れている状態 | b24 |
| | 何も体に対して異常を感じない | b25 |
| 無病息災 | b26 | |

映画鑑賞前に記載させたQ1の自分なりの健康の定義をまとめたものが表3である。番号欄の表記はクラスごとにA、Bと分け、女子学生の場合は大文字(A,B)、男子学生の場合は小文字(a,b)で記した。

この結果からは、主に「心身」「病気」に関することが大学生の健康観の中心となっており、その他に「体」「心」「自立」といった記述もみられた。ところで世界保健機関WHOによる健康の定義は、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」⁸⁾とされており、「心身」以外に「社会的」な健康に注目していくことも期待されている。

厚生労働省の「健康日本21」によれば、「(1)社会的健康」とは、他人や社会と建設的でよい関係を築けることと提示されている。またそれ以外にも、自分の感情に気づいて表現できる「(2)情緒的健康」や、状況に応じて適切に考え現実的な問題解決ができる「(3)知的健康」、人生の目的や意義を見出し主体的に人生を選択する「(4)人間的健康」も、「このころの健康」に大切な要素で、「生活の質」に大きく影響する

ことが触れられている。さらに「こころの健康」は、個人の資質や能力の他に、身体状況や社会経済状況、住居や職場の環境、対人関係など多くの要因が影響することも示されている⁹⁾。

上記にみた「(1) 社会的健康」「(2) 情緒的健康」「(3) 知的健康」「(4) 人間的健康」の視点が学生の回答にどのようにみられたのかを分析すると、まず人間関係や社会との関係性に関わる「(1) 社会的健康」については、学生 [A6]「社会生活や自己実現において心身ともに支障がない状態」という回答にのみ確認できた。また自分の感情に気づいて表現を行う「(2) 情緒的健康」については、学生 [A26]「体に異常がなく、あらゆる活動が自由にできる状態」といった自由な活動への着目や、学生 [A26]「病気やケガがない状態。ほどよく笑って生活できている状態。」のように笑って生活をするといった暮らし方への着目がみられたが、これについてもそれほど多い記述がみられたわけではなかった。また状況に応じて適切な問題解決ができる「(3) 知的健康」については、直接該当しそうなものはみられなかったが、学生 [b21]「自分自身が生活をする上で支障なく生活できる状態」や、学生 [B22]「支障のない生活」、学生 [b25]「何も体に対して異常を感じない」といったように生活上問題がないことや、学生 [b9]「起きる、食べるが自分でできて病気をしていない状態」や、学生 [A19]「病気ではない、よく眠れる、よく食べられる」のように基本的な生活ができることも大枠としては含まれることが考えられる。そして主体的に人生を選んでいく「(4) 人間的健康」については、学生 [A1]「生きていることを感じながら過ごしていること。身体的のみならず、生活にハリがある状態。」や、学生 [a8]「心身共に大きな問題がなく、頑張ろうと前向きに思っている状態」、学生 [A28]「必要以上の活動が意欲的にできる状態」、学生 [b19]「やる気が沢山ある状態」といったように、生きることに前向きな状態の表現が示されているのがみられた。

以上より、大学生による健康の定義には、心身に関すること、病気や怪我がない事などが大枠としてイメージされていることが明らかになった。またそれを「(1) 社会的健康」「(2) 情緒的健康」「(3) 知的健康」「(4) 人間的健康」といった「こころの健康」に関わる項目から分析していくと、授業では明示していないが無意識的にこれらの視点が含まれていくこともうかがえた。自分自身の人間関係のあり方（(1) 社会的健康）や、自分自身の感情と表現活動の関係性（(2) 情緒的健康）といったあたりは大学生の健康観として浮上しにくかったが、状況に応じた問題解決（(3) 知的健康）には心身に異常がないことを前提に基本的生活を支障なく行えることが提示されており、また主体的な人生の選択（(4) 人間的健康）にはマイナス状態ではなくポジティブな心の状態が捉えられていた。しかし健康を阻害する要因となる経済状況や職場などの環境、対人関係についてはあまり注目されていなかった。次項では、家庭科分野の衣

食住などの各テーマからトトロ映画を鑑賞することで、大学生の健康観がどのように提示されるのかを分析していく。

2-2 映画鑑賞後の「健康」との関連による家庭科の授業提案

映画鑑賞前の Q1 の質問項目では「生活の営みに係る見方・考え方」の4つの軸である「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築」を、「①健康」「②快適」「③安全」「④協力・協働」「⑤生活文化の継承・創造」「⑥持続可能な社会の構築」の6項目に分け、まずそのイメージを尋ねた。次に映画鑑賞を行い Q2 を考えさせる中で、Q3 の衣食住等の学習分野と関連させた授業展開も考えさせた。さらにその提案した授業内容が Q1 でイメージした6項目とどのように関連するのか分析させるワークを行った。なお授業展開を考える際の参考として、これまでの授業内容（住生活分野以外は既習済み）を振り返らせたり、小学校家庭科教科書¹⁰⁾の目次を配布したりした。

本稿で注目する「①健康」について、家庭科における学習分野とどのように結びつくイメージがなされたのかまとめたものが表4である。各分野について回答があったのは衣生活分野5名、食生活分野24名、住生活分野1名、家族生活分野2名、消費生活分野6名、環境分野2名の計40名が「健康」との関連で授業提案を行っていた。また1つの分野だけでなく多分野で「健康」を関連させていた複数回答者もあり、学生 [A12]（衣生活分野、食生活分野）、学生 [A20]（衣生活分野、食生活分野）、学生 [A18]（住生活分野、環境分野）、学生 [a3]（食生活分野、家族生活分野）、学生 [A19]（食生活分野、家族生活分野、消費生活分野）の計5名であった。また「関連するキーワード」を「①健康」のみから分析している者は、食生活分野12名、消費生活分野3名、環境分野1名であり、それ以外の者は、「①健康」に加え、「②快適」「③安全」「④協力・協働」「⑤生活文化の継承・創造」「⑥持続可能な社会の構築」の他の5項目と重ねて分析をしていた。なお「提案する授業内容」の部分が記載できていたとしても、「関連するキーワード」の分析ができていない回答については表4に掲載していない。

表4をみると、特に食生活分野と「健康」の関連をイメージさせる者が最も多いことがうかがえる。「何を食べるか」という栄養やバランスを意識した回答や（学生 [A20] [A14] [A18] [B22] [b3] [b17] [b21] [A22] [A26] [A2]）、彩り（学生 [A18] [b13] [A22]）に注目した授業展開の提案がみられた。また「誰と食べるか」について考えた授業内容は、学生 [a15]「個食は孤食？会食は快食！！食事のあり方について考える」という回答のみにみられた。さらに実際に調理実習をする案もあり、その中には映画の生活場面を活用したパフォーマンス課題を設定しているものもあった。（学生 [a3]「メイ達が食べていた朝食を作ってみよう」、学生 [A7]「昔からある食について調べ、健康的な食事の献立を立てよう！メイにお弁当を作ってあげよう」、学生 [b1]「ト

表4 映画鑑賞後の「健康」との関連による家庭科の授業提案

| 分野 | 関連するキーワード | 提案する授業内容 | 番号 |
|-----|---|--|-----|
| 衣生活 | ①② | 昔の服装を調べてみよう | A12 |
| | ①② | 現代とトトロの中の人々が来ていたものの違い。どうして着物？着物のメリット、デメリットについて。 | A20 |
| | ①② | 季節に合ったコーディネートを考えよう。(1)トトロをみてサツキとメイの服装から季節を考える。(2)自分の持っている服をイラストor写真で用意し、季節ごとにコーディネート。(3)どうしてそのようなコーディネートをしたのか班で発表する。 | A24 |
| | ①② | トトロの映画の中は、どのくらいの気温で、季節はいつか考えよう | A27 |
| | ①② | 季節にあった服を着よう | a29 |
| 食生活 | ① | トトロの中の朝食と今日の自分の朝食の比較。洋食の人はどれがどれの栄養になっているか(パンと米など)。和食の人は違う点、同じ点を考える。朝食はバランスよく食べることが重要。 | A20 |
| | ① | メイとサツキの食生活を考えよう。どんなものを食べているかな。栄養バランスはどうかな。 | A14 |
| | ① | さつきのお弁当を分析してみよう。彩り、栄養 | A18 |
| | ① | 個食は孤食？会食は快食！！食事のあり方について考える | a15 |
| | ① | メイ達が食べていた朝食を作ってみよう。 | a3 |
| | ① | 昔からある食について調べ、健康的な食事の献立を立てよう！メイにお弁当を作ってあげよう。 | A7 |
| | ① | 朝ごはんを考えよう(作ろう)、栄養面は？ | B22 |
| | ① | 映画に登場するお弁当のバランスについて考えよう→バランスの良い献立について考えさせる。 | b3 |
| | ① | 現代の食べ物と比べて、当時のお弁当はどうであったかを比べ、栄養素やカロリーを調べる。 | b17 |
| | ① | さつきの作った朝ごはんの栄養素は？ | b21 |
| | ① | トトロの世界のご飯を実際につくろう | b1 |
| | ① | トトロの中ででてきた食事の献立を調べよう。またそれぞれを赤、黄、緑に分類しよう。 | b13 |
| | ①② | 美味しくて、バランスがよくて、ウキウキするお弁当をつくろう。彩りも栄養も良いお弁当を考えて作ってみよう。 | A22 |
| | ①②⑤ | 釜でご飯を炊いてみよう | A12 |
| | ①③④⑤ | 効率よくご飯を作るための、設備と栄養のある献立は何かを考える | A26 |
| | ①④ | サツキがつくっていた料理をつくってみよう(みそ汁) | A23 |
| | ①④ | 朝、昼、夜の献立を考えよう。 | b10 |
| | ①④ | お弁当の具材について、材料、作り方など、また歴史を考える。 | b6 |
| | ①④⑤③ | 自分でお弁当を考えてみよう。作り方を調べて、調理実習もできそうならやる。 | A6 |
| | ①④⑤⑥ | サツキがつくったお弁当と朝ご飯をつくってみよう | A4 |
| | ①⑤ | 伝統的なおやつを作ってみよう(おはぎ)、お弁当をつくってみよう(家族) | A19 |
| | ①⑤ | どんな食べ物がでてきたかを聞く。→それぞれ自分の気になった食べ物の歴史、作り方を調べる。 | A17 |
| | ①⑤ | お鍋でご飯を炊いてみよう！→お弁当作り | A5 |
| ①④⑤ | お弁当の栄養素(栄養は足りているか?)、おいしそうなおいしそうに、米中心(お弁当も米の割合が多い/おはぎもお米)米をつくっているから？ | A2 | |
| 住生活 | ①② | 快適な住まい。風の通り道、トトロの見取り図、わが家の見取り図で考えよう | A18 |
| 家族 | ①②③④ | 家族に感謝を伝えてみよう | A19 |
| | ①③ | メイの家族の1日の暮らしを考えてみよう。 | a3 |
| 消費 | ①④ | 買物に行こう | A19 |
| | ①②③④⑤⑥ | メイたちの家の出費を考えよう。自分の家と比べよう。なんでこんなに違うのか。 | A28 |
| | ① | 現代の暮らしとどこが違うか(水を得る方法は?) | b18 |
| | ① | 現在の暮らしと比べる | b24 |
| | ①②③ | 電気や水などは、私たちの生活の中でどんな役割を持つか考えてみよう。 | b25 |
| | ① | 自給自足するものと買うもの考える | b9 |
| 環境 | ①⑤ | 森や木を観察。地域の山には何がある？ | A18 |
| | ① | 自然と共に暮らしている | b12 |

トトロの世界のご飯を実際につくろう」、学生〔A23〕「サツキがつくっていた料理をつくってみよう（みそ汁）」、学生〔A4〕「サツキがつくったお弁当と朝ご飯をつくってみよう」また「関連するキーワード」の項目に注目すると、「①健康」と同時に「④協力・協働」に7名、「⑤生活文化の継承・創造」に8名がセットで考えており、みんなで作って食べることが協力・協働に繋がったり、食は生活文化の継承に関わったりするものであるとイメージされていることがうかがえる。

衣生活分野と「健康」との関連については、学生〔A12〕〔A20〕にみられるように着物など昔の服に注目させ、メリット・デメリットを考えさせることや、学生〔A24〕〔A27〕〔a29〕のように季節にあった服を考えさせることが提案されている。また衣生活分野の授業展開を提示した5名全員が、「関連するキーワード」において「①健康」と「②快適」を同時に提示しており、これらはセットでイメージされやすいことがうかがえる。

住生活分野と「健康」との関連については、部屋の中に風を通す「通風」と健康について提示している、学生〔A18〕「快適な住まい。風の通り道、トトロの見取り図、わが家の見取り図で考えよう」のみにみられた。また衣生活分野と同様に「関連するキーワード」において「①健康」と「②快適」をセットにして提示していた。

家族生活分野と「健康」との関連については、学生〔A19〕「家族に感謝を伝えてみよう」、学生〔a3〕「メイの家族の1日の暮らしを考えてみよう」にみられた。「関連するキーワード」については、前者の学生〔A19〕は、「①健康」「②快適」「③安全」「④協力・協働」をあげており、後者の学生〔a3〕は「①健康」「③安全」といった視点からセットで考えていた。

消費生活分野と「健康」との関連については、トトロ映画の場面設定が高度経済成長期にあたることから、生産と消費のあり方が現代社会と少しギャップがあり、映画の状況と比較させるような授業提案がみられた。例えば、学生〔A28〕「メイたちの家の出費を考えよう。自分の家と比べよう。なんでこんなに違うのか。」や、学生〔b18〕「現代の暮らしとどこが違うか」、学生〔b24〕「現代の暮らしと比べる」といった提示は、現代社会との違いによる生活実態の比較の学習提案である。また現代社会との比較という直接の明示はみられないが、トトロ映画の暮らしの中で、貴重とされている電気や水について考えさせたり（学生〔b25〕「電気や水などは私たちの生活の中でどんな役割を持つか考えてみよう」）、自給自足と消費生活のあり方を考えさせる案が提示されていた（学生〔b9〕「自給自足するものと買うものを考える」）。

環境分野と「健康」との関連については、トトロ映画の家の周囲の状況を把握するという意味での「住環境」に着目した授業提案となっている。（学生〔A18〕「森や木を観察。地域の山には何がある？」、学生〔b12〕「自然と共に暮らしている」）

以上より、食生活は栄養面、衣生活は季節に合わせた着方、住生活は通風、家族生活は家族との関わり、消費

生活は自給自足など昔の暮らし方との比較、環境は住環境の把握といったような、小学校家庭科の学習内容と関連させた授業提案がみられた。またトトロ映画の場面をパフォーマンス課題として活用している学生もみられた。次項では、ここにみられた「健康観」の分析と、小学校家庭科で教えるべき「健康」について学習指導要領解説を参照し考察していく。

3 考察及びまとめ

本研究は、家庭科における「生活の営みに係る見方・考え方」の4つの軸のうち「健康」に着目し、小学校教員を目指す大学生が家庭科の授業提案の中に「健康」の視点をどの程度引き寄せることができるかを探った。今回の調査結果では、「健康」は、衣食住の学習のうち、食の中で意識される場合が多く、住生活ではほとんど意識されにくいことが明らかになった。また食においても栄養面への注目は高かったが、団らんなどみんなで食事をするといった人との繋がりも健康に含まれるという視点は大学生の分析からはほぼ見えてこなかった。したがって家庭科の各学習分野においては、今後健康に関する多面的学習の展開が望まれるといえる。

では家庭科において、現時点ではどのような「健康観」が示されているのだろうか。学習指導要領をみると家庭科では中学校段階において「健康」に関する内容がかなり明確に提示されている。しかし小学校での「健康」の学習も、中学校に進学した際の学びの土台として重要である。では小学校段階では、家庭科はどのような「健康」概念が提示されているのだろうか。家庭科の『小学校学習指導要領解説』¹¹⁾をみると、衣食住などの各分野で健康についての説明はなされているが、家庭科としてどのような健康概念を用いるのかまでは明確には示されていなかった。各分野の説明は、家族分野においては、家庭生活が家族の健康を支えるために重要であること（p.22）が提示されており、食生活分野においては、食事は健康を保ち体の成長や活動のもとになることや（p.35）、栄養素は健康の保持のために役立つこと（pp.44-45）、栄養バランスを考えること（p.46）が示されていた。住生活分野においては、健康のために冷房機器を効果的に使うことや（p.60）、目の健康のために適度な明るさを確保する必要性とその方法の理解といった採光の学習（p.60）が示されていた。

上記の学習指導要領解説にみられる「健康」の説明は、家族分野の説明を除けば、その人自身が鍛えていくセルフヘルスマネジメントの視点が提示されていることがうかがえる。つまり「健康」はその人自身が持っている所有概念とされているのである。しかし、例えば人間関係に関わる「(1)社会的健康」はいくらその人自身にコミュニケーション力があっても、コミュニケーションできるような集まる場が存在しなければ、その「健康」は発揮されることがない。そのような健康が発揮されるコミュニケーションの場づくりも含めて、家庭科は幅広い意味での健康に関する学びを展開する

ことができるのではないだろうか。

今回の授業展開の課題としては、学生自身に漠然と「健康観」を尋ねるのではなく、映画教材を鑑賞させる前に、衣食住などの各学習分野から「健康」をどのようにイメージできるか調査を行い、それを踏まえて各学習分野で提示すべき「健康」の補足を行うような授業展開が望まれると考える。また今回学生達が授業提案した内容が、なぜ、どのように「健康」に繋がっていくのかを、さらに追求できるような学習活動も必要であったと思われる。

注

- 1) 文部科学省 (2017) 「新しい学習指導要領の考え方 - 中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ -」 pp.24-28
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afiefieldfile/2017/09/28/1396716_1.pdf (2019/7/1 参照)
- 2) 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領 家庭」
 文部科学省 (2017) 「中学校学習指導要領 技術・家庭」
 文部科学省 (2018) 「高等学校学習指導要領 家庭」
- 3) 文部科学省教育課程部会 (2016) 「家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」 p.21
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/065/sonota/_icsFiles/afiefieldfile/2016/09/12/1377053_01.pdf (2019/7/1 参照)
- 4) 大竹美登利、鈴木真由子、綿引伴子 (2018) 『小学校家庭科教育法』建帛社、pp.33-35
- 5) 今村貴幸 (2017) 「女子大学生における健康観と生活習慣に関する一考察」『常葉大学保育学部紀要』(4), pp.61-78
- 6) 山田浩平、河本祐佳 (2014) 「小学校教員志望者と養護教諭志望者の保健学習に対する意識の比較」『愛知教育大学教育創造開発機構紀要』(4), pp.105-113
- 7) 幸前有南 (2013) 「生活科における健康観育成の可能性について」『生活科・総合的学習研究』(11), pp.179-186
- 8) 日本 WHO 協会、<https://www.japan-who.or.jp/commodity/kenko.html> (2019/7/1 参照)
- 9) 厚生労働省「健康日本21」https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/b3.html (2019/7/1 参照)
- 10) 文部科学省検定教科書 (2015) 『わたしたちの家庭科56』開隆堂出版
- 11) 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領解説 家庭」